

AIの使用OKなクラスとNGなクラスで  
学習成果、比べてみた。  
意外な結果に

22161380 小林 龍生

# 実際のクラスで実験

- ▶ マサチューセッツ大学アマースト校の教授陣が、3、4年生向けの独占禁止法に関する経済学の授業を2クラス開講し、AIを使用するクラスと使用しないクラスの学習成果を比較しました。
- ▶ 両クラスにて、講義内容、課題、そしてノートやテクノロジー使用禁止という同じ条件下で筆記試験を行なったところ、生成AIを構造的に利用することにより、学生の学習意欲と自信が向上。一方で、試験の成績には影響しなかったのだとか。

# 意外とポジティブな影響

- ▶ 両クラスを担当したChristian Rojas教授と共同研究者たちによれば、AIを使うことが許された学生たちのほうが授業への参加意欲が高かったのだそう。
- ▶ 学期の終わりには、どちらのクラスの学生も他の授業では同程度にAIを使っていましたが、AI利用を許可された学生は、より長く（15～30分ほど）中身の濃いセッションでAIを活用していました。

# ズルではなく効率的なAI活用

- ▶ 「AIのおかげで学生がより多く学べたというわけではありません。より効率的に、より自信を持って学べるようにしたのです。学生たちは授業外での宿題や試験勉強にかける時間が短くなりました」とRojas教授は大学の声明で説明しています。

# 結論

- ▶ 「全体として、ガイドラインを設けたうえでの構造的なAI利用は、学生の学び方や学びへの意識を変える可能性があるものの、試験の点数を上げるわけではないようです」と研究者チームは結論づけています。

# コメント

- ▶ そもそもノートやテクノロジー持ち込み禁止の筆記試験が、AIが無い時代の旧来スキルを測る試験です。AI時代の試験を早く発明する必要があります。
- ▶ AIの利活用は、学習における階段状の「ステップ」や「壁」を、なだらかな「スロープ」に変えるものだと感じます。生徒や学生一人ひとりが抱える課題は異なり、解決方法を自力で見出せずに悩む姿も少なくありません。AIは、そうした多様な状況に合わせて伴走してくれるパーソナルサポーターのような存在です。

# 感想

- ▶ 時代の変化によって、AIが受け入れられてきているため、禁止にする必要はないと思いました。
- ▶ 今後は、新たなスキルを推し量る試験も必要になってくると思います。